



いわて・みやぎ・ふくしま
便利

No. 9

2019 年
3 月 8 日発行

日本生協連
組合員活動部

2019 年が始まったと思ったら、1 年の 4 分の 1 に差し掛かる 3 月になりました。

今月、東日本大震災から丸 8 年になります。当便り掲載の被災地生協より「くらし・地域復興応援募金をはじめとする継続した支援をいただき、感謝しています」というお言葉をいただいています。これからも、応援していきましょう！



8年間の継続したご支援に感謝申し上げます。

いわて生協ではこの8年間、一日も早い復興を願い、組合員の協力と募金、全国の生協から支援のもと、被災地の支援に取り組んでまいりました。

この1年も、「買い物支援」「なりわい支援」「笑顔と元気を届ける活動」、「震災を風化させない活動」。4つの柱で支援を継続してきました。この8年間では、移動店舗「にこちゃん号」などは53万人が利用し、被災したメーカーの商品の利用は30億円を超えました。また、ふれあいサロンなどには3万3千人が参加しています。このような活動を続けることができたのも、全国の生協のみなさんからの継続したご支援があったからこそです。改めてご協力に感謝申し上げます。

ピーク時には月79会場で開催していた仮設住宅での「ふれあいサロン」もあと3会場となりました。被災地の復興は着実に進んでいますが、心の復興やコミュニティづくり、なりわいづくり、仕事づくりなど、まだ支援は必要です。みんなが笑顔になれるその日まで、被災地に寄り添った支援活動を継続いたします。引き続きよろしくお願いいたします。



「震災を忘れない」「これからも応援する」
復興へのおもいをつなげるリボンプロジェクト

東日本大震災から8年の3月11日には、いわて生協の店舗で募金活動と「リボンプロジェクト」を行います。会場に用意された20cmのリボンに、「名前」「イニシャル」「応援メッセージ」などを書き込み、針金に飾ります。各会場で作られたリボンと針金のオブジェを集めてモニュメントを作り、被災地のコープ総代会(5月開催)に応援メッセージとしてお届けします。

また、震災発生時刻の14:46には全店舗で黙祷も行い、風化させずこれからも支援を続けていくことを確認します。



針金モニュメントのイメージ



バスボランティア

わかめ作業のお手伝い 今年も実施します。



いわて生協の「産直真崎わかめ」（日生協商品も製造）の産地、宮古市の田老町漁協。田老地区は津波の大きな被害で漁協も壊滅的な被害を受けました。収穫時期が限られている「わかめ」の作業は近所の方々がアルバイトに来ていましたが、震災で周囲に住む方が減り、人手確保が難しくなったことから、2014 年よりわかめ収穫時期にボランティアによる応援を行っています。今年も袋詰め作業のお手伝いに伺います。個人での参加もできますので、お申し込みは下記の連絡先までお問い合わせ下さい。



＜バスボランティア日程＞

日程： 3月24日（日）、3月30日（土）、3月31日（日）

行 先： 田老町漁協 （盛岡市内発着のバスを運行。盛岡6:30発 17:00着）

◆参加希望の方は、いわて生協 復興支援活動グループ 担当 池田

電話019-603-8299（組合員活動チーム）までお問い合わせ下さい。



生協くまとのみなさんと交流しました。

2016年4月の熊本地震から丸3年経ちましたが、未だ1万9千人ほど（2019年1月末現在）が仮設住宅で暮らしており、生協くまもとは、仮設住宅や店舗などで「こーぷ喫茶」（サロン活動）や健康チェック相談会などの支援活動に取り組まれています。



みやぎ生協では、東日本大震災の被災者支援活動の中で「支援者のための支援」の大切さを学び取り組んできた経験から、2月に生協くまとのみなさんに宮城へご来訪いただきました。みやぎ生協理事などとの交流会では、これまでの互いの活動紹介や意見交換のほか、この先の

支援活動で想定されることなどを宮城県サポートセンター支援事務所の真壁さおりさんにご紹介いただきながら交流しました。翌日の南三陸町の復興状況の視察と併せ、長く続く支援活動の今後や地域づくりを、互いに考える機会となりました。



熊本地震被災地を、買って応援！



2018年5月に理事・職員が熊本地震被災地のひとつ西原村に伺って、復興に取り組むご苦労をお聞きしたことをきっかけに、西原村の復興応援となるよう「買って応援」する活動に取り組みました。

西原村のさつまいもや、村内にある福祉施設「にしはらたんぽぽハウス」の製品の購入を宮城県内のこ〜び委員会に呼びかけ、計3,107個、約84万円と大きな支援になりました。

←レンジでチンして食べられるさつまいもと、「にしはらたんぽぽハウス」の柚子胡椒ドレッシング・ねぎ味噌ラー油・阿蘇俵山カレーを「買って応援！」



宮城県の今 ～南三陸町の様子～

南三陸町では、町内世帯数の6割以上が住宅全壊などの被害を受けましたが、新たに造成した高台での災害公営住宅の整備および防災集団移転の工事が完了し、住民のみなさんの新たな生活が始まっています。

みやぎ生協では、2016年にUR都市機構や住民、行政、社協などと連携したコミュニティづくり支援を行ったほか、こ〜び委員会同窓会の取り組みなどを通して、2017年には志津川のこ〜び委員会が復活しました。

旧防災対策庁舎は、震災遺構としての保存の是非が大きな議論となり、宮城県が20年間の県有化を決めています。その周辺は、震災復興祈念公園として整備される予定で、現在、大規模な工事が行われています。



高台に整備された志津川東団地の概要



南三陸町・志津川東災害公営住宅での芋煮会
(2016年11月27日)



防災対策庁舎

【2011年6月8日 南三陸町内】



【2018年11月27日
旧防災対策庁舎の周辺】

南三陸町では、直接死 600 人、関連死 20 人の計 620 人の方が亡くなられ、2018 年 12 月末現在でも、211 人の方が未だ行方不明となっています。



魚料理のコツを学ぼう！

1月25日(金) 相馬原釜地方卸売市場調理室にて「浜のかあちゃん調理教室」が開催され、相双地区の組合員20名が参加しました。調理教室は、福島県の漁業の復興再生を応援する取り組みとして、昨年からはじめられました。

相馬双葉漁業協同組合女性部相馬支部のみなさんから、ホッキ貝の剥き方やカレイの下処理等ポイントを教えてもらいながら、ホッキ飯、カレイの煮付け、白魚の1本揚げ、青のり味噌汁を完成させました。

福島第一原発事故から、まもなく8年。未だに本格的な操業が行われていない福島の水産業ですが、試験操業で水揚げされた地元の味に舌鼓を打ち、相馬の味を堪能しました。

食文化伝承の大切さ、福島の水産物の美味しさを再確認した調理教室になりました。



「手前味噌は美味しいぞ！」～大豆の会 味噌づくり～

2018年度のふくしま大豆の会「畑の学校」味噌づくり&閉講式は、1月26日、福島市のJ A福島ビル10階で行われ、50人が参加しました。



生産者の方が丹精込めて作った大豆を原料に、加工業者の内池醸造さんにご指導いただき作業開始です。蒸した大豆を潰す作業は力と根気のいる仕事ですが、ここが肝心。厚手のビニール袋に大豆を入れ、指で押しったりめん棒を使ったり、足で踏んだりして粒が残らないように潰します。そこに塩と麴をまんべんなく混ぜて樽に詰めました。熟成は各ご家庭で。お好みによって9月ごろから食べ始

めることができるということです。

※「ふくしま大豆の会」は「作り手の顔がはっきり見える地元産の安全な大豆が食べたい！」という消費者の願いから、生産農家と加工業者、消費者が三位一体となって1998年に7月に発足し、今年20で年目になります。



雪遊びといちご狩り♪子ども保養プロジェクトのご報告

開催日 2019/2/9(土) -/10(日)

保養先 リゾート・イン・ぼなり 雪遊び、いちご狩り

参加者 9家族 子ども19名(内小学生8名)、大人17名

天候 9日/曇り・雪、10日/雪・晴れ

1.一日目 雪遊び(ぼなり)

郡山5家族中、3家族がいわき市からの参加でした。最近、いわき市からの参加が増えています。コヨット!運営委員会では、新たに避難先から帰還した家族に、コヨットのことが知られてきたのではないかと分析しています。いわき市は雪があまり降らない地域だけに、雪遊びには子どもたちはもちろん、お母さんたちの期待も高く、最後まで親子で遊ぶ姿も見られました。そりだけでなく雪の中に寝転んで遊ぶ子、サラサラの雪で何とか雪だるま



ができないかと挑戦する子もありました。「雪の中で楽しく遊ぶことが出来ました。大人も子



供も家から離れて非日常を楽しむことが出来ました。」と感想をいただきました。

福島から参加した、同じ保育園でお友達同士の女の子たちは、行きのバス中で一緒に大きな声で歌を歌っていました。夕



食の時、食事前に二人でステージに上がって歌と振り付けで盛り上がり、盛んに拍手を浴びていました。

「いただきますのご挨拶」は 3 人までとしたので、家族対抗じゃんけん大会を行いました。小さな子も参加して、これも盛り上がりました。

2.二日目 いちご狩り（北会津フルーツランド・久ちゃん）

翌日は、会津若松市に出かけていちご狩りを行いました。今年は、少し遅めの成長とフル



ーツランドの方がお話しをされていましたが、苺は、豊の香と紅ほっぺの 2 種類が栽培されていました。大きな苺を探したり、赤く熟した苺を選んで食べる子など、30 分間の食べ放題にとっても満足していました。ハウスを出る時、4 歳の子が「この苺は、すごくおいしい！たくさん食べておなかいっぱい。」と言ってくれたので、毎年対応して頂いているフルーツランドの方もにっこりしていました。



スタッフとしてもそう言ってもらえるのが一番です。

みんな、にっこり！

【参加者アンケートから】

「(福島)市内の小学校では、校庭の除染で授業時に校庭が使えない事情があったり、まだまだ外遊びを満足にできるとは言い切れない今日です。また、避難している方々にも帰還者のためにも、保養は絶対に必要です。この事業はぜひ未来の子どもたちのために続けてください。」

「まず、この保養企画をずーっと続けてくださっている事に感謝です。まもなく震災から 8 年ですが、今でも“これで良かったのかな…”と不安になる日もあります。そんな時この保養に来ると心身ともにリフレッシュ出来て、”また明日から頑張ろう！”と思えます。子供達もコヨットが大好きです！私たち親子にとって宝物のような時間です。たくさんの方々のお心と協力のもと、この保養に来れたことに本当に感謝しています。ありがとうございました。」

発行

日本生協連 組織推進本部 組合員活動部
電話 03-5778-8124 Fax 03-5778-8125

担当

末永、上田